

いばらき農 変わります！

特集

茨城県は広大な農地と多くの農家人口を有する全国でも有数の農業県です。

近年、農業を取り巻く情勢の変化などから、本県農業は厳しい状況に置かれています。

今回は、消費者のベストパートナーとなる新たな茨城農業の実現を目指して本県の農業関係者が一丸となって取り組んでいる「茨城農業改革」などを紹介します。

農作業体験「NEOアグリセミナー」
(銚子地域農業後継者クラブNEO)

東京都中央卸売市場大田市場での
市場流通システム研修
(岩井地域農村女性大学)

消費者との農業交流活動「アグリ倶楽部」
(つくば地区農業青年連絡協議会)

全国農業産出額ランキング

都道府県名	農業産出額 (億円)	全国 順位
北海道	10,457	1
千葉県	4,246	2
鹿児島県	4,002	3
茨城県	3,976	4
愛知県	3,372	5
熊本県	3,294	6
新潟県	3,119	7
宮崎県	3,088	8
岩手県	2,777	9
栃木県	2,638	10

(平成13年データ)

「つくれば売れる」から
「喜んで食べてもらえる」へ

なぜ、今、茨城県で
農業改革なのか

茨城県は、総面積に占める耕地面積割合が約30%で全国第一位、気候も温和で、位置的にも首都圏の消費地に近いという農業生産には恵まれた条件を有しています。

そして、これらの好条件を生かし、首都圏はもとより、全国への一大食料供給基地として発展してきました。しかし、近年は、輸入農産物の増大による価格競争の激化、担い手の不足、耕地利用率の低下など、本県農業は厳しい状況に置かれています。特に、これまでは恵まれた流通環境であったため、消費者ニーズや流通形態の変化に対応した商品づくり、販売戦略の確立といった取り組みが遅れたという点があります。

地域間競争が激化する中で、日本をリードする元気ある茨城農業を実現させるためには、今こそ抜本的な農業改革が必要になってきているのです。

日本をリードする茨城農業を
目指して

平成十四年一月、農業産出額全国第二位奪回を目指すため、「茨城農業改革」に向けたプロジェクトが始まりました。

十六名の有識者からなる『いばらき農業改革研究会』が農業改革の戦略の検討を開始。研究会は、約一年半にわたる十四回の検討会などを経て、今年七月一日に県知事に改革の推進方向を提言しました。



おいしいミニトマトができました(旭村)

『いばらき農業改革研究会』提言の基本方向

農業者、産地関係者などが自ら、「消費者のベストパートナー」となる新たな茨城農業の確立を目指し、「つくれば売れるものづくり」から「喜んで食べてもらえるものづくり」への転換を図る。

茨城農業改革総決起大会が開催されました

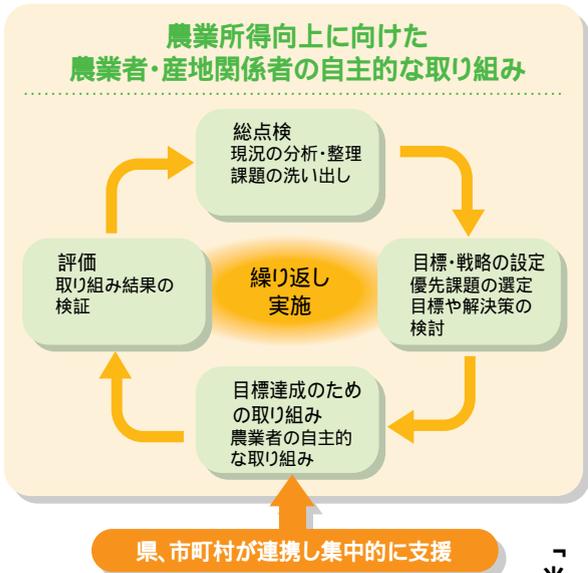
平成十五年七月三日、ひたちなか市文化会館において、農業者、消費者、流通業者など関係者約千四百人が一堂に会し、一丸となって「茨城農業改革」をスタートさせるため、「茨城農業改革総決起大会」が開催されました。



みんなで進めよう「茨城農業改革」



おいしそうなメロンです(鉾田町)



「いばらき農業元気アップ作戦」を展開中！
主役は農業者です

この作戦は改革の主役となる農業者・産地関係者などが主体的に、目標とやる気を持って自らの農業所得向上を目指して課題解決を図る取り組みです（実施フロー図参照）。

県では、この取り組みに対して、市町村とともに支援を行い、農業者をバックアップするための新たな「生産現場提案型」施策の展開を図っていきます。

「茨城農業改革」がスタートしました

県では、平成十五年度を茨城農業改革元年と位置付け、地域農業総点検活動をはじめとする「いばらき農業元気アップ作戦」を推進するとともに、生産力や販売力強化のための施策など、緊急に取り組むべき事項を中心に改革をスタートさせています。

いばらきの 買ってもらえる米づくり

水稲は、本県農業産出額の約二十五%を占め、産出額は全国第七位となっています。品種は、「コシヒカリ」が約八十%を占め、その他「あきたこまち」、本県オリジナル米「ゆめひたち」など、おいしいお米が栽培されています。



茨城オリジナル品種「ゆめひたち」



いばらきのおいしい「コシヒカリ」をどうぞ

平成十四年十二月に決定された「米政策改革大綱」により、平成十六年度から米の生産調整の配分方法が変更され、前年の売れた米の量と需要予測により、作つてよい数量が配分されることとなります。

この結果、売れ残りの生じた産地では徐々に米の作付け面積が減ることになりますので、産地間競争の一層の激化が予想されています。

高品質米の生産を目指して

県では、産地間競争に打ち勝てる競争力の強い米産地の育成を図るため、県産米の品質向上に向けた取り組みを進め、「収量重視」から「品質重視」へ、買ってもらえる米づくりへの転換を図っています。

また、県産米のホームページを開設し、消費者や実需者に情報発信を行うとともに、生産者に対しては高品質米生産技術情報などの提供を行っています。



県産ブランド米「筑波北条米」収穫風景

消費者に愛される いばらきの農産物づくり

農産物(野菜、果樹、花き)は、本県農業産出額の約四十六%を占め、北海道、千葉県、愛知県に次いで、産出額は全国第四位となっています。しかし、近年、特に園芸部門において消費ニーズの多様化や流通形態の変化などが顕著となっており、これらの変化に対応した生産者の意識改革や実需者ニーズに応じた供給体制(品質・規格の統一、安定生産・出荷、ロットの拡大など)の整備など新たな生産販売戦略の確立などが急務となっています。

消費者のベストパートナーを目指して

県では、茨城産の農産物に関する生産情報を消費者に提供し、消費者の本県農産物に対する品質評価や商品ニーズなどの情報を迅速に生産者まで伝達する「茨城ネット農産物電

畑地整備を行い、農作物の品質向上や生産性アップを図っています(猿島町生子地区)

子カタログ(仮称)の整備を推進しています。

また、本県青果物のイメージアップ対策や産地の活性化を図るとともに、機械・施設の整備を推進するなど各種施策を総合的に展開しています。



高齢樹園を改植して収量アップを図っています(下妻市)

全国有数の茨城の農産物

品目	産出額(億円)	全国順位	全国シェア(%)
露地メロン	179	1	22.2
れんこん	57	1	36.3
干しいも	46	1	95.8
ごぼう	37	1	13.9
みつば	23	1	20.2
セリ	15	1	44.1
らっきょう	11	1	19.3
芝	29	1	32.6
レタス	120	2	16.7
はくさい	93	2	20.5
ピーマン	70	2	18.2
チンゲンサイ	14	2	14.9
くり	13	2	16.5
切り枝	13	2	11.2
かんしょ	143	3	16.2
ねぎ	101	3	7.5
なし	70	3	7.2
スイートコーン	24	3	7.3
かぼちゃ	21	3	9.0
にら	20	3	8.3
しそ	9	3	4.5

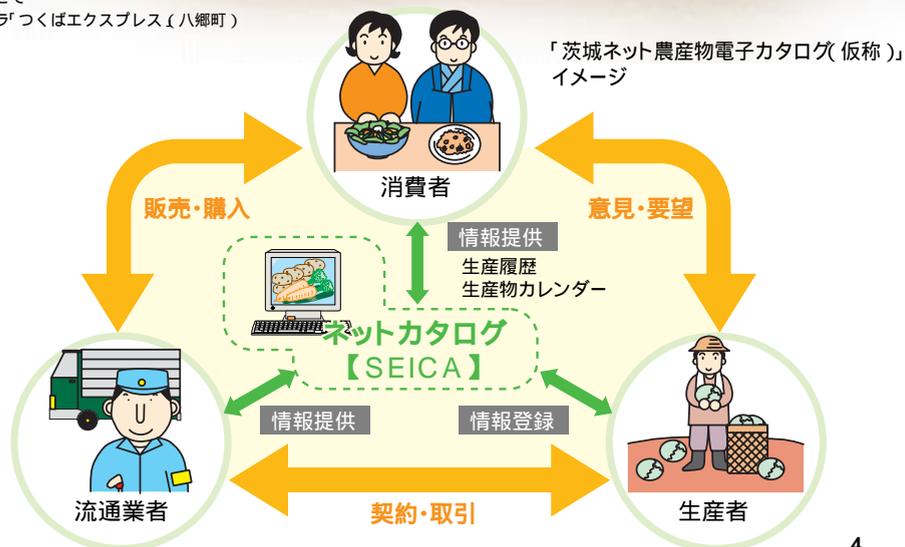
(平成13年データ)



~つくばから香りをのせて~
茨城オリジナル品種バラつくばエクスプレス(八郷町)

消費者の皆さんに、おいしい茨城の農産物をお届けするために

「茨城農業改革」は、茨城の農業関係者が消費者の皆さんに、より新鮮でおいしく、安心・安全な農産物をお届けするための取り組みです。「消費者のベストパートナーとなる茨城農業」を目指して、今年スタートしました。これからは茨城農業をどうぞ応援してください!



元気のある農業者の皆さんを紹介します



昭和六十一年、生産者と消費者の健康を守ることを目的に有機農法研究会として発足しました。
十分に発酵させた堆肥による土づくりを基本として、無化学肥料減農薬栽培を行うなど環境にやさしい農業に取り組んでいます。販売品目は、米、野菜、果実、キノコ類など六十品目以上。
県内八支部から茨城町の本部へ一元集荷して品質などのチェックを行っています。環境にやさしい農業コンクール優秀賞受賞。

有限会社 丸エビ倶楽部

茨城町

連絡先

☎ 029-292-6648

所在地 / 茨城町駒場212-1

人、土地、環境にやさしい農業を実践しています。



平成八年設立。大根つま、おろしなどの生産及び加工・販売を行っています。県内外との大根契約栽培により周年安定供給体制を確立。有機肥料を全面的に使用し、無化学肥料栽培を実施。平成十四年度からは委託契約先の生産者全員に、農業の使用状況の管理記帳を義務付け、いち早く「トレーサビリティ」の確立を図っています。
平成十五年七月、第五十二回日本農業コンクール全国大会においてグランプリを受賞。

農業生産法人 有限会社 ナガタフーズ

岩間町

連絡先

☎ 0299-45-4542

所在地 / 岩間町福島672

6次産業化を実現。後継者育成などにも貢献しています。



昭和四十五年、南瓜部会を結成以来、全量開口検査の実施や未熟果出荷者に対するペナルティの規定化などにより、規格の統一・品質向上を図り、高い評価を受けています。
関東一円で消費者との交流活動を実施するほか、宣伝用ポスター、料理集の作成や、江戸崎かぼちゃ音頭を制作するなど積極的にPRなどにも努めてきました。
昭和五十九年、日本農業賞を受賞。

JA稲敷江戸崎南瓜部会

江戸崎町

連絡先 / JA稲敷中部経済センター

☎ 029-892-6645

所在地 / 江戸崎町江戸崎3016-3

良品出荷を心掛けています。



農作物の研究開発・販売・観光農場の経営、選果機の開発など農業に関する幅広い活動を行っている、KEKグループの実践農場として、平成十四年に設立されました。
二・三ヘクタールのビニールハウスで栽培を行い、カートリッジ式簡易隔離ベット方式による大玉フルーツマト(高糖度トマト)の栽培方法を確立しました。
現在、低コスト化・安定生産に向けた取り組みを行っています。

農事組合法人 協和園芸開発センター

協和町

連絡先

☎ 0296-57-2956

所在地 / 協和町門井1705

糖度9度以上の大玉フルーツマトの栽培方法を確立しました。